

校長室通信

令和 8 年 6 月 19 日号
志免町立志免西小学校
高良 祐治

梅雨に入り、蒸し暑い日が続いています。それでも子どもたちは汗びっしょりになって元気に遊んでいます。ここ数年の状況からも、間もなく暑さ指数が警戒値を超え、外で遊べなくなるでしょう。子どもたちは“今の間に”一生懸命遊んでいるようです。ご家庭でも、洗濯やお茶の準備、十分な睡眠など、子どもたちが毎日元気に学校生活を送れるようご協力をお願いします。

判断の放棄

報道等でご存じのように、プロ野球チームの監督が、自身の子どもへの暴力で逮捕(その後不起訴)されました。しかし、話題になったのは、この事件そのものよりも、逮捕までの過程でした。

18 歳の子どもが、父親から暴力を振るわれたことを相談した相手は、生成 AI でした。生成 AI は、児童相談所への通告を勧め、子どもは「素直に」連絡し、結果的に警察が出動し逮捕に至りました。

親子と言っても暴力は絶対に許されませんし、「俺が子どものころは親父によく殴られたもんだ。」といった昭和の考え方は、今は通用しません。

しかし、子どもは、警察沙汰になることを望んでいないわけではないでしょうし、目の前で警察に連行される父親の姿を見て、事の大きさに驚いたのではないのでしょうか。

今回の報道を見ながら、今後、このような案件が増えていくのではないかと、これから学校としてどのような指導が必要になっていくのだろうか、など色々考えさせられました。

今回の事例は、そこに感情を挟まなければ、誰も間違っていない。生成 AI の活用も一般的になってきました。しかし、何かもやもやするのは次のようなことが原因だと思います。

一つは、生成 AI の活用に境界線がなくなっていることです。話し相手として、日常的に生成 AI を利用している人も増えています。はじめは「ちょっとしたこと」を質問することに利用していても、生成 AI はその質問の類型や反応を分析し、徐々に「自分好みに」育っていきます。そうすると、「自分に寄り添ってくれている」と感じ、次第に人生を左右するようなことまで相談するようになります。

「さすがにそれは生成 AI には相談しないだろう」ということも、スマホで相談することが当たり前になって

きているのかもしれませんが。

もう一つは、「判断」の放棄です。何か調べごとをするときに、ネットで検索することが当たり前になりました。その結果については、子どもだけでなく大人も疑うことなく信じています。

これが生成 AI についても同じことが言えるようになってきています。ただし、ネット検索の場合は、「わからないことを調べる」とどまっていたことが、生成 AI については、「どうすればいいか調べる」にまでなっています。

様々な状況や情報を踏まえ、最善策を検討し、行動を決めてきた人間らしさを、「なんだか私たちに計り知れないすごいコンピューターが判断しているのだから間違いはないだろう」と、疑うことなくその提案や指示通りに行動してしまうことで放棄しています。

人間の行動は、そこに心情や感情が入ることで、より人間らしさが生み出されると思います。もちろん、このような心情や感情をあえて省いて判断しなくてはいけないこともあります。しかし、それを決めるのも人間らしさだと思います。

「自分で決める」経験を子どものうちにたくさんさせておくことが大切だと思います。

後先考えずに行動する子ども

最近、「友だちの自転車に乗って帰ってしまう」といった「どうせわかるのに、なんでそんなことを？」という行動をとってしまう子どもが増えています。

人間は、今の状況の前(〇〇さんが大切にしてきた等)と後(きっと〇〇さんは悲しむ等)を想像することを自然に行っていますが、その想像する過程が、ゲームやスマホによって失われたりサイクルが短くなったりしているのかもしれませんが。

いったん落ち着いて、ゆっくり考えてみるのが子どもだけでなく私たちにも必要なのかもしれませんが。